

208

伴々懐測は驚々と言語を絶するものがあった。
 各らは、爾來、卓と造り棚を設けて、起居に漸く
 便あるを母に到ったのみならず、風土及び水にも慣
 れ且つは療舎を繞り諸種の設備は成り、他の
 療舎への往復に由る顔見知りと交友とも漸次加
 はって、幸キヤンが我々時中の収容所に充てられ
 るものと信じてゐただけ、他への移動は皆に押
 られなかつたのである。随つて此日の報告は實に
 名状し難き一大シヨウでもあったのである。

我々荷物は本曜日に午迄に備へ検査の上、幸
 局の牛に渡せば目的地へ輸送される、乗車にはほ
 んの選魔或はヌアル其他身廻り品のみにて、検査
 は官給品の有無と検査するだけといふ、官給品
 は全部返却するものだから、Knife等は運搬途中に
 我々の汽車には携帯と許さず、現金は全部舎長
 洞に充て、手許迄預け、其を一切記入の上、幸
 局へ手交すべしである。

不安の一夜と現の裡に過ぎたのである。

April 7日(火)

今日は一同稍々平靜を取り戻しに到つたものの、尚ほ
 不安の情は各員の顔色に濃厚の度を加へてゐる
 のは掩も難き事実だ。荷物の整備に於ける怯
 と極めて居る。移動者は概計 346 名であつて
 オレゴン州からは 25 名余の諸君の外に

209

洋食店

家内就働者
理髪業

農業

grocery

ホテル

ホテル及び
伴隨代理人

Suit cleaning
洋服

grocery

高尾房吉

高尾雅之吉

上杉清吉 農

佐田元

立石義正

佐々木浩作

臼田享司

佐々木庄彦

佐々木俊二

Suit cleaning

高橋渉

杉浦万吉

丹原俊之

支那料理

南信一 (ホテル)

若田龍一 (ホテル)

中村久太郎 (農園就働者)

東久三郎 (ホテル)

木曾繁一 (日本料理店)

前原亀一 (ホテル)

増岡信一 (ホテル)

加藤明徳 (農業)

小林滝夫 (洋食店 Horio 市)

古川円太 (ホ)

市共進会 衆務就働者

鐘ヶ江勝造 (無職)

等以上の諸君である。

夕景に到つて 移動先は Oklahoma 州 Fort Sill
と判明。一同の驚愕は到底例へやもなく、今後吾
らは軍部監視の下に置かれる事が明瞭となり、愈々
りくべき処に山の運命に弄ばれ、いはゆる天涯
萬里の異境に戦禍の渦に何百かの同胞と連
退れ共にするのは、一大試練として、大さな覚
悟の ~~時~~ 情と決めるねばならん。

貴店は移動者のため、安物の Suit case
やら布袋が取り寄せられ、店前は列をきり開店
時間も従って延後し便宜と計つてくれる。
僕は十二日検査されて以来、心の不安と憂鬱とは
相争大おるものなり、生活の急変で健康とも異なり、
名状しがたい不快の日常に終始しつつあるも、尚
且之れを言動に暴露すると厳しく諷んで来た。

戦時監禁中には、無為に過ごす事なく、何事かと
 押し込むと許す範囲に於ける読書、瞑想又は
 反省に力めつゝあると信ずるのにか、今回の移動
 に直面し、心の動揺は倒れ抑へ難きものがある。
 自來斯く平時と欠く一日々と違へた事は、此か
 初めてだ。況や家族と残してゐる他の諸君
 の不安と憤りは想像に外である。而も先づ通
 知を厳禁せしめ立て追ひ立てに於ては、
 家族の退去実施を控へ悲痛といはんが惨状
 と呼ばうか敢て筆に現はす業と知らぬのである。

午後基督教派では十九日金で、信者のため
 送別祈禱会がなされた。

April 8日(水)

天気晴朗にて春日露ら、初夏の気萬象に張り、
 戦乱と外にホ鳥の啼り、早午より囚人の夢と破る。

最近The Oregonian紙に掲載されてゐた、全米内に
 於ける兵營所在地/圖解によると、Oklahoma 州の
 Fort Sillとは五千人以上の駐営兵と有する旅団が
 師団である事が想像できる。

この夜迄に各負荷造りを終へ引渡に就つた。Army
 bagと注文した荷箱と、Laundry bagが多数
 入荷あり。一個六十五仙也で手に入、グラブ等
 は靴に履き back to be 等と入れる。他は hand grip と
 Suit case だ。汽車中の入用品と収める為の松島